

平成30年度 実地研修会（震災復興の現状）事業の概要

1. 宮古盛岡横断道路 宮古西道路「（仮称）磯鶏^{そけい}トンネル」建設事業 …………… 宮古市磯鶏

宮古盛岡横断道路は「復興支援道路」として、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして位置づけられ、平成23年11月に事業化されました。事業にあたっては、復興事業の促進を図るため、国内初の事業促進PPPを導入しています。これは、官民がパートナーを組み、官民双方の技術・経験を活かしながら効率的なマネジメントを行うことにより事業の促進をはかるものです。

「（仮称）磯鶏トンネル」は、宮古盛岡横断道路のうち、宮古西道路区間の起点に当たる箇所に建設中です。同トンネル



は延長1,554mであり、同市中心部で工事を行っており、市街地に近接しているため、防音ハウスや防音扉などを設置し、地域への影響に配慮しつつ、ICT（情報通信技術）も取り入れながら、工事を進めています。

2. 大船渡港海岸防潮堤整備事業 …………… 大船渡市（大船渡港）

大船渡港は、昭和34年に重要港湾に指定され、セメントやその原燃料が多く取り扱われています。被災前の防潮堤の高さはT.P.+3～3.5mでしたが、東日本大震災津波における大船渡湾の津波痕跡高さは10.4mであり、大船渡市内でも甚大な被害が生じました。このため、大船渡湾では、発生頻度の高い津波（数十年～百数十年で発生している津波）への対策として、昨年3月に復旧した国土交通省施工の湾口防波堤との組合せにより、防潮堤の計画高さをT.P.+7.5mとし、延長約7kmに及ぶ防潮堤の復旧及び整備を進めています。



なお、最大クラスの津波に対しては、住民の避難を軸に、土地利用、避難施設の整備などソフト・ハードを総動員する「多重防護」での対策を進めています。

また、東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲になった事実を踏まえ、現地作業が生じないよう水門・陸閘自動閉鎖システムの整備を進めています。

3. 陸前高田市震災復興事業 陸前高田市

風光明媚なりアス式海岸に位置し、東北有数の海水浴場でもあり国の名勝にも指定されている陸前高田市の「高田松原」を含む周辺一体は、年間約100万人が訪れる観光地でもありました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では地盤沈下や液状化が生じたとともに、地震直後に発生した大津波は気仙川を7km以上遡上し、中心市街地を含め壊滅的な被害をもたらし、死者・行方不明者は1,760人にも及び、県内最大の被災地となりました。

①陸前高田市被災市街地復興土地画整理事業

津波により市役所をはじめ中心市街地のほぼ全ての建物が流失した高田地区と今泉地区においては、土地画整理事業により、高台住宅地の整備や浸水区域の一部をかさ上げし、商業施設等を配置するなど、安全でコンパクトな新しい市街地の整備を進めています。

施行面積は、高田地区が約186ha、今泉地区は約112haと被災地最大規模であり、全長3kmに及ぶベルトコンベアを使用した土砂搬出により工事期間の短縮を図りました。平成32年度の事業完成を目指しています。平成29年4月には、高田地区のかさ上げ地で初の営業となる大型商業施設「アバッセたかた」と「まちなか広場」がオープンし、市立図書館が開館するなど、新たな中心市街地が形成されつつあります。



②高田松原津波復興祈念公園事業

高田松原は、約350年前から造林された約7万本もの松林で三陸沿岸地域を代表する景勝地でした。しかし、東日本大震災の津波により、高田松原の砂州と松はほぼ全て消失しました。

高田松原地区に整備する復興祈念公園は、岩手県、さらには被災地全体のかなめとなる祈念公園として、この地のみならず東日本大震災で犠牲になった全ての生命（いのち）に対する追悼と鎮魂の場となるものです。また、三陸沿岸地域で先人たちが培ってきた津波防災文化とともに今回の震災の実情



高田松原津波復興祈念公園イメージ

と教訓を後世に伝承し、さらに高田松原の再生を通じて自然と人々との関わりの新たな姿をこの公園で具現化し、我が国の復興のありようを国内外に明確に示すものでもあります。

この公園の中に再建される道の駅「高田松原」内には「東日本大震災津波伝承館」の整備を進めており、ラグビーワールドカップ2019™釜石開催（2019年9月）前の開館を予定しています。

また、公園としては、2020年に「国営追悼・祈念施設（仮称）」及びその周辺の一部区域を供用開始し、その後、順次、残りの区域を供用していく予定です。